

Scramble Shot

Opera バイエルン州立歌劇場 《ファルスタッフ》千秋楽

2001年にアイケ・グラムスが演出したヴェルディ《ファルスタッフ》が惜しまれながらも千秋楽を迎えた。2018/19年シーズンに新演出が予定されているためだが、所見した日曜日、3月19日の開演前には、子供用の解説も用意され、17時開演という親切な設定だったため、家族で楽しめる公演となっていた。

現在、ファルスタッフと言えはまず思い浮かぶアンブロジーノ・マエストリはこの劇場でも適役ぶりを披露し、音楽的にも大黒柱のように支えていた。なぜならば、指揮のアッシャー・フィッシュは軽快さや滑稽さの表現はうまいものの、伴奏オーケストラの音量が抑えられず、それを無難に通り返す声を持っているのはマエストリだけだからだが、そのマエストリさえ、語るように状況説明する歌の部分は、十分聴こえず残念だった。

アリーチェのヴェロニク・ジェンス、クィックリーのダニエラ・バルチェッローナ、フォードのフランコ・ヴァッサーロ等の有名どころよりも、メグのダニエラ・ピーニ、ナンネッタのエカテリーナ・シウリーナ、バルドルフォのケヴィン・コナーらが光り、パヴォル・プレスリクのフェントンはカウフマン以来の適役だった。若いカップル二人が実力派なのに、甘く歌わせられない指揮が惜しい。

第2幕の幕切れに、ファルスタッフが魚と洗濯かごと一緒に、テムズ川を泳いでいる姿を一瞬で描写するなど、観客を楽しませる工夫にあふれ、別れるのが淋しい《ファルスタッフ》だったが、新演出にも期待したい。(中東生)



最後となったアイケ・グラムスによる演出のバイエルン州立歌劇場《ファルスタッフ》から © Wilfried Hoel